

水道事業の業務状況（令和4年9月30日）

1 水道事業の概況

加須市の水道事業は、平成25年度に厚生労働大臣から新たな加須市水道事業として創設認可を受けるとともに、合併に伴う水道料金の一元化を行い、平成25年度及び平成26年度の料金一元化に伴う激変緩和措置を経て、平成27年度からは、全市域での統一料金の適用による事業運営を行っています。

水需要については、少子高齢化による人口減少に伴い、給水人口も減少に加え、環境に配慮した節水意識の高揚、節水型家電の普及により、水需要の増加が見込めない状況となっております。

こうしたことから、令和3年度決算においても、配水量及び有収水量が減少しており、水道事業を取り巻く経営環境は、厳しい状況が続いています。

また、経営の効率性については、その重要な経営指標である有収率が、平成25年度から4年間連続して、年1ポイント以上減少しておりましたが、漏水調査による早期修繕等の成果により、平成29年度以降上昇に転じ、令和3年度決算においては、85.38%であり、対前年比0.15ポイント増加いたしました。しかし、目標（90%）としている有収率を達成するためには、施設の稼働が更に収益につながるよう引き続き、対策を講じていく必要があります。

そこで、令和4年度の事業経営といたしましては、事業運営の指針である「加須市水道ビジョン改訂版」に掲げた各施策の推進はもとより、短期的には、漏水調査や老朽管の更新による有収率向上策により経営改善を図ってまいります。

また、中長期的には、令和4年度に改定予定の「（仮称）第2次加須市水道ビジョン」において、現計画を継承しつつ、課題等を整理し、これまでの取組内容の見直しを行ってまいります。

また、「第2次加須市総合振興計画前期基本計画」など市の主要計画との整合や社会経済情勢の変化に応じた水需要の動向を踏まえながら、決算ごとに投資計画や財政収支見通しの見直しを行い、引き続き、計画的に水道施設の更新を図るとともに、経営基盤の強化を図る方策として、ICTなどのデジタル技術を活用した新しい経営手法や民間委託の拡大、水道広域化を検討しつつ、『未来へつなぐ安心・安定 加須の水』を市民に継続して供給できるよう、計画的かつ効率的な事業経営に努めていきます。

(1) 営業状況

令和4年度9月末現在の水道料金収入の元となる給水量（使用水量）は、年間予定13,037千 m^3 に対し、6,631千 m^3 （50.1%）を執行し、これによる収入額は、年間予定2,388,437千円に対し、1,229,587千円（51.5%）となっております。

(2)建設改良費

令和4年度に予定している設備投資に関する主な事業は、下記のとおりです。

事業名	事業費(千円)	事業概要
石綿セメント管更新	242,349	石綿セメント管の更新(耐震化)工事
水圧不足対策	192,062	水圧不足解消のための配管布設工事
有収率向上対策	11,769	漏水多発地区における配水管布設替工事
浄水場統廃合更新整備	10,780	久下浄水場内整備ほか実施設計委託
浄水場設備改修	60,269	各浄水場の設備改修工事

2 令和4年度の経理概況(令和4年9月末現在)

収入	予算現額(千円)	予算執行累計額(千円)	執行率(%)
収益的収入	2,769,389	1,342,672	48.5
資本的収入	395,800	3,905	9.8

支出	予算現額(千円)	予算執行累計額(千円)	執行率(%)
収益的支出	2,681,603	714,859	26.7
資本的支出	1,195,582	409,987	34.3